

# 船水 公明（ふなみず・こうめい）

## 1、プロフィール

大正6年若山牧水主幹「創作」に参加する。雑誌「黎明」「座標」「樹氷」等を発刊、県内における指導的役割を果たす。横山武夫らと青森県歌人協会を設立、中心となり活躍。

<生没>

1898(明治31)年2月10日 ~ 1972(昭和47)年4月21日

<代表作>

歌集『路』『宇多川』『さるとりいばら』

小説「山の畑から」『疣』

随筆集『花咲かず』

<青森との関わり>

青森町大字安方町95番地(現青森市)に生まれた。

## 2、作家解説

大正6年、若山牧水主幹の「創作」に参加する。同8年淡谷悠蔵、林証次郎らとともに歌誌「黎明」を発刊、同誌は県内の指導的文芸誌となる。昭和5年竹内俊吉、淡谷悠蔵らと県総合文芸誌「座標」創刊、常任委員となり歌壇の代表として参加する。昭和8年歌誌「樹氷」を発刊し、県内における指導的役割を果たす。また「黎明」に小説「山の畑から」を連載して、後日短編集『疣』(昭和5年4月)を発行する。昭和21年横山武夫らと、青森県歌人協会を設立し、その中心として活躍するなど、幅広い活動を続け、県内文芸史に足跡を残した。

代表歌

怪しげな小屋のいでゆに浸りつついにしへ人の心にかへる(宇曾利湖)(昭和38年刊・歌集『さるとりいばら』所収。)

### 3、資料紹介

○歌集『さるとりいばら』

図書(豆本)

1905(昭和 38)年5月

95mm×97mm

第三歌集。昭和 38 年5月発行、自選自書した 39 首を収める。佐藤米次郎の版画も何点か載っていて、大変親しめる豆本歌集である。まえがきで「さるとりいばらの延び方が私の歩いて来た生き方に似てゐるところから題に選びました」と述べている。